

きょう と し た ぶん か し さく こん わ かい 京都市多文化施策懇話会 ニュースレター No.10

へんしゅう はっこう きょう と し た ぶん か し さく こん わ かい じ む きょく きょう と し そうごう き かく きょく こくさい か すいしんしつ
編集／発行：京都市多文化施策懇話会事務局（京都市総合企画局国際化推進室）
2013（平成25）年6月14日発行

ねん ど へいせい ねん ど だい かい かい ぎ かい さい 2012年度（平成24年度）第4回会議を開催しました

- ＜日 時＞ 2013年（平成25年）1月24日（木）午前10時～12時まで
＜場 所＞ 京都市国際交流会館
＜議 題＞ 外国籍市民等と地域交流 ～留学生～
2012年度（平成24年度）提言について



だい かい かい ぎ リゅうがくせい きょう と し ない かつどう リゅうがくせいりょう リゅうがくせい あつ
第4回会議では、留学生をテーマに、京都市内で活動している留学生寮や、留学生が集まる
きりすと かい かい ぎ かつどう たんと う い いん ほうこく ぜんいん いけんこうかん おこな
キリスト教会の活動について、それぞれの担当委員が報告し、全員で意見交換を行いました。
また、1年間の会議の内容をもとに、懇話会から京都市へ提出する提言について議論しました。

ほうこく こくさいじょ し リゅうがくせい 報告1 ー 国際女子留学生センターについてー

リゅうがくせいりょう と く ちいさ た ぶん か こうりゅうかつどう
留学生寮が取り組んでいる、地域での多文化交流活動について

ほうこく きょう と せんきょうきょうかい 報告2 ー 京都宣教教会について

リゅうがくせい あつ きょうかい リゅうがくせい せいそう ふくしとう ちいさかつどう
留学生が集まるキリスト教会と、留学生たちによる清掃や福祉等の地域活動について

「国際女子留学生センターの取組について」

国際女子留学生センターは1967（昭和42）年に設立された留学生寮で、会員の方々の会費で運営され、45年の間に52カ国521名の女子留学生を受け入れてきました。

～国際女子留学生センターの取組～

● 地域との交流

センターでは長年、会員のうち、地域の方がボランティアで「京都のお母さん(ホストマザー)」役となり、家族とも交流できる「オープンファミリー制度」を設け、留学生が安心して勉強できる環境づくりに地域一体となって取り組んできました。

● 伝統行事・伝統文化体験

京都のお母さんと一緒に、伝統行事への参加（例：葵祭、祇園祭、時代祭）や、伝統文化体験（例：着物着付け体験、茶道、生け花）、季節の日本食体験（例：お正月一おせち料理、ひな祭一ちらし寿司）などの交流を行ってきた。



● センターの三大イベント

「初夏祭」、「日本伝統音楽の観賞と体験」、「リサイクル市」では、広く京都在住の留学生にも呼びかけ、ボランティア会員と留学生が交流を深めてきた。

● 留学生の課題

- 生活習慣や宗教の違いから、初めは寮の集団生活に戸惑いを覚えたり、留学生同士でトラブルになることがあるので、日本のしきたりや文化について丁寧に説明している。
- 日本人学生の友達ができにくく、学生同士の交流が不足しがちになる。センターでは、オープンファミリーの家族など、できるだけ多様な年齢の日本人と交流ができるよう工夫を行っている。
- 言葉が通じないことによるストレスや精神的な悩みを抱えた学生に対して、オープンファミリーの方々や職員が話を聞いたり、場合によっては会員の医師等専門の方を紹介することが必要となる。

● 今後の留学生支援の課題

- センターでは会員の高齢化や、女性の社会進出等の影響で、後継者不足が従来から課題となっていた。こうした社会状況も踏まえて、留学生支援の担い手となるボランティアを確保することが大切である。
- センターでは、活動費用のほとんどを会員の会費でまかなってきた。しかし、充実した留学生支援を継続的に行うためには、より安定した収入を確保することが重要である。

※センターは今年3月に閉館し、その役目を終えましたが、そこで留学生生活を送られた方々は、日本と母国との友好の懸け橋となり、世界各地で活躍されています。

京都宣教教会（東山区）は2004（平成16）年1月に設立し、平日30～50名、日曜日130名前後の方が集まり、教会の活動に加えて、文化活動・ボランティア活動等を行っています。メンバーの約9割が留学生（うち中国人9割、その他インドネシア、韓国、タイ、ミャンマー、ジャマイカ等）です。

～京都宣教教会の取組～

● 留学生生活支援

教会員が中心になり、家をシェアして生活している。そうすることで、家賃や光熱費を節約し規則正しい生活を送り、また、相談相手もいるのでホームシックからの寂しさを紛らわせ、異文化でのストレスも減らすことができている。



● 地域との共存

留学生がボランティアで、鴨川河川敷や教会近隣の掃除を定期的に行い、地域への奉仕活動をしている。また、近くの老人福祉施設の際に民族舞踊・音楽などを披露している。また、地域の独居高齢者の方々のために、荷物運びや電球換え、ゴミ出しなどの力仕事の手助けをしている。さらに、留学生有志が近隣の高齢者・一人暮らし・障がい者の家庭を定期的に訪問し、声掛けする中で留学生たちと地域の方々が助け合い、お互いを理解しあっている。

● 留学生の課題

- ・ 日本人生徒と肩を並べるので、学業面で高度な理解力が求められる。また、アルバイトでは、言葉が十分に理解できないために叱られ、精神の面で疲労がある。この2つの両立が難しい。
- ・ 大学の受験費用、学費や生活にかかる諸費用等の経済面での問題
- ・ 日本の生活環境、習慣に慣れず、勉強を途中で断念して帰国してしまう方もいる。

● 教会の今後の課題

- ・ 毎週130名もの人が集まるには、現在の場所は手狭なため、より広い活動場所の確保が必要。
- ・ 費用・人材面が十分ではない。留学生が安定した生活を送り、能力を発揮し、さらに将来的にはそうした力をいかして世界で活躍する人材を支援するためにNPO法人の設立を留学生OBの方々とともに進めている。

（事業例） 留学生の生活環境（生活、精神の健康、学業などの面）が整った学生寮の設立
 留学生の就職斡旋（日本で学んだ知識・技術が生かされ、日本・母国・他国で活躍できるように）

現在教会がボランティアで行っている日本語教室の運営など

2012年度(平成24年度)報告書を提出しました。

2013(平成25)年3月26日、京都市多文化施策懇話会を代表して西岡正子座長が、「2012年度(平成24年度)報告書」を門川大作・京都市長に提出しました。



～ 提 言 ～

1. 多文化共生にかかわる人材育成とネットワークづくりの促進
 - ・多文化共生推進の担い手となる人材を育てるとともに、さまざまな関係者や関連団体間の活動をつなぐ橋渡し役となる人材の育成に取り組むこと
 - ・多文化共生に取り組んでいる関係者や関連団体が、相互に連携するためのネットワークづくりを支援すること
2. 外国籍市民等を対象とした情報提供の推進と、国籍や文化を超えて学び合う場の充実
 - ・日本語学習の機会や防災に関する情報など、日本での生活に必要な情報を、効果的にわかりやすく提供すること
 - ・外国籍市民等に日本語や日本の生活習慣などを学んでもらうとともに、すべての市民が、国籍や文化の違いを超えて、ともに学び合う場を充実させること
3. 多文化共生の推進による地域交流、地域コミュニティの活性化
 - ・外国籍市民等と地域住民との交流の場を増やし、外国籍市民等の自治会・町内会への加入や地域行事への参加を促進する取組を行うこと
 - ・外国籍市民等に地域社会の担い手として活躍してもらうことで、地域コミュニティを活性化させる取組を実施すること

これらの提言を受けた門川市長は、「さまざまな団体・機関と外国籍市民等をつなぐ人材育成、さらにこれらの団体や個人によるネットワークづくりを促進し、地域における多文化共生を推進してまいります。」と述べました。

※報告書を御希望の方は事務局まで御連絡ください。また、報告書の内容は京都市国際化推進室のホームページに掲載しています。

事務局からのお知らせ

本ニュースレターや懇話会に関する御意見などがございましたら、下記までお寄せください。

(懇話会の会議はどなたでも傍聴することができます。)

また、懇話会ニュースレターのバックナンバーや英語版を御希望の方は、下記までお問い合わせください。

京都市多文化施策懇話会事務局

〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488番地 京都市総合企画局国際化推進室

TEL: 075-222-3072 FAX: 075-222-3055 Eメール: kokusai@city.kyoto.jp

ホームページ: <http://www.city.kyoto.lg.jp/sogo/page/0000085281.html>